

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月6日現在

機関番号：80101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720179

研究課題名（和文） 北東北諸藩の藩庁日記にある松前・蝦夷地関係記事の基礎的研究

研究課題名（英文） Basic Study on the Articles related to Matsumae and Ezo ground that exist in the Clan Agency Diaries of the Clan in Northern Part of the Tohoku Region

研究代表者

三浦 泰之（MIURA YASUYUKI）

北海道開拓記念館・学芸部・学芸員

研究者番号：50300843

研究成果の概要（和文）：本研究では、北東北諸藩（弘前藩、南部藩、八戸藩）の藩庁日記に登場する松前・蝦夷地関係記事を網羅的・体系的に収集した。そして、その一部を活用し、近世期の松前・蝦夷地をめぐる政治的・社会的・経済的・文化的な状況に関して、新たな事実と論点を提示した。

研究成果の概要（英文）：In this study, the articles related to Matsumae and Ezo ground that exist in the Clan Agency Diaries of the Clan in Northern Part of the Tohoku Region (Hirosaki Clan, Nanbu Clan, Hachinohe Clan) were collected exhaustively and systematically. Moreover, Some of them were used, and new facts and points under discussion were presented for political, social, economical, cultural situation over Matsumae and the Ezo ground for the period of early modern times.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2008年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2009年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2010年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2011年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：日本史学

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：日本近世史、北海道史、北東北諸藩、藩庁日記

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は、2005～2007年度に研究課題「近世中後期から近世近代移行期の北日本における芸能文化の基礎的研究」で科学研究費補助金(若手研究(B)17720167)の助成を受け、当該期の北日本で行われた芸能興行に関する史料を収集し、北日本社会における興行主や旅芸人の具体的な様相の一端を明らかにするとともに、芸能文化の視点から当該期の北日本の社会構造の解明に向けて新た

な論点を提示した。その研究課題において重要な史料として位置付けたのは、弘前藩の藩庁日記『弘前藩国日記』（以下、『国日記』と略称）3300冊余である。『国日記』に散見される芸能興行関係史料の分析から、最北の城下町弘前や松前・蝦夷地への渡海口である三厩を領内に抱える弘前藩は、北日本における芸能興行を理解する上で重要な地域であることが確認できた。

(2) その一方、『国日記』の調査過程では、松前・蝦夷地に関わる記事が頻出することも注目された。近世期の北海道を対象とする研究においては、松前藩政に関わる文書や藩領域内の地方文書の不足に基因する史料的な限界が指摘されてきた。それは、特に17～18世紀において顕著である。そこで、『国日記』を始めとして、南部藩、八戸藩など、北東北諸藩の藩庁日記に登場する松前・蝦夷地関係記事を網羅的・体系的に把握することにより、その史料の欠を補い、松前藩政の動向や松前・蝦夷地の社会構造、北日本社会における人やモノの往来などに対して、新たな事実と論点を提示することになるのではないかと考えるに至った。

(3) 藩庁日記はその藩領内の問題を考察するにあたっての基礎史料であり、北東北諸藩の藩庁日記も、多くの研究者によって各藩の藩政史・村落史研究など、藩領内の動向を対象とした研究の上で活用されてきた。近年は、『青森県史』『青森市史』『弘前市史』の編纂事業も進められており、その一部は史料編で翻刻紹介もされている。また、近世期の北海道との関わりという点においても、弘前藩や南部藩が幕府から命じられた松前・蝦夷地警備に関わる問題や、南部藩と松前藩の間で交わされた贈答儀礼に関わる問題、津軽半島や下北半島に居住した本州アイヌの生産活動に関わる問題、弘前藩や南部藩の領域内から松前・蝦夷地へ出稼ぎに訪れた商人や百姓に関わる問題などについて、藩庁日記を用いた研究成果が積み重ねられてきた。しかしながら、いずれの研究も、北東北諸藩の政治構造や社会構造を明らかにしようとする視点で行われ、近世期の北海道史に関わる問題として扱われていない傾向が強い。北東北諸藩の藩庁日記にある松前・蝦夷地関係記事から導き出される史的情報は、北東北諸藩の側の問題としてのみ考えられるのではなく、松前・蝦夷地側の史料等との比較検討などを行った上で、近世期の北海道史に関わる問題としても扱う必要があるのではないかと考えるに至った。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、第一に、北東北諸藩（具体的には、弘前藩・南部藩・八戸藩の三藩）の藩庁日記に登場する松前・蝦夷地関係記事を網羅的・体系的に把握することを目的とした。

(2) 第二に、その作業を通じて、近世期の松前・蝦夷地をめぐる政治的・社会的・経済的・文化的な状況に関して、新たな事実と論点を提示することを目的とした。

(3) 第三として、関係記事のデータベースを

作成して、それを広く公表し、活用の途を拓くことも目的とした。

3. 研究の方法

(1) 北東北諸藩の藩庁日記として、以下の3件がまとまった形で現存している。

①弘前藩

・寛文元年(1661)～慶応3年(1867)に至る『国日記』3300冊余
(弘前市立弘前図書館所蔵)

②南部藩

・寛永21年(1644)～天保11年(1840)に至る『雑書』180冊余
(もりおか歴史文化館所蔵)

③八戸藩

・寛文5年(1665)～明治2年(1869)に至る『八戸藩日記(御目付)』250冊余
・貞享2年(1685)～明治元年(1868)に至る『御勘定所日記』110冊余
(いずれも八戸市立図書館所蔵)

本研究では、上記の藩庁日記の調査を行い、松前・蝦夷地関連記事を体系的・網羅的に収集する作業を実施した。

具体的には、弘前藩については青森県立図書館が所蔵するマイクロフィルムを、南部藩については青森県立図書館が所蔵するマイクロフィルムと『盛岡藩雑書』『盛岡藩家老席日誌 雑書』の書名で時代順に全文翻刻・刊行が継続されている史料集を、八戸藩については青森県立図書館が所蔵するマイクロフィルムと『八戸市史』史料編(近世1～10)に抜粋翻刻されている分を利用した。

(2) 北東北諸藩の藩庁日記にある松前・蝦夷地関係記事と比較検討する目的で、函館市中央図書館が所蔵する近世期の松前・蝦夷地関係史料や、弘前市立弘前図書館が所蔵する近世期の弘前藩領内の地方文書等の中にある松前・蝦夷地関係記事などについて調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 本研究を通じて収集した北東北諸藩の藩庁日記にある松前・蝦夷地関係記事は、政治・社会・経済・文化など、多岐にわたる分野に関連しており、詳細な個別研究は今後の継続課題である。また、関係記事全体の翻刻紹介やデータベースの公開によって活用の途を拓く作業も継続課題として残さざるを得なかった。ただ、関連記事の一部については、史料紹介等を行った。例えば、『国日記』の中から、いずれも、アイヌ民族がもたらした蝦夷地の特産品で、領主階級の嗜好品として著名であるが、流通・利用の実態がほとんど明らかにされていなかった「蝦夷錦」「ラ

ッコ皮)に関わる記事を取り上げ、18世紀中期までの時期における弘前藩領内での流通・利用の実態について、その一端を明らかにすることが出来た点が挙げられる。具体的には、①弘前藩は「御用」としてたびたび「蝦夷錦」や「ラッコ皮」を必要としていたこと、②蝦夷錦については、青森町奉行を通じて松前藩や松前城下の御用商人に依頼して取り寄せていたことや、御用商人から弘前藩主への献上品の一つとして「唐太織」(蝦夷錦)が含まれていたこと、③ラッコ皮については、やはり主として松前藩や松前城下の御用商人に依頼して取り寄せていたこと、主な用途として藩主が用いた馬鞍に覆い敷く毛皮が挙げられること、などを指摘した。

(2) 松前藩側の史料との比較検討の一環として、嘉永元年(1848)から安政6年(1859)に至る松前藩足軽木村源吉の『公私日記』(函館市中央図書館所蔵)の翻刻紹介を行った。そして、藩領域を越えた犯罪人の捜索活動や津軽海峡を往来した旅人の動向等について、藩庁日記の記事との間で相互補完される内容があることを確認した。

(3) 北東北諸藩の藩庁日記にある松前・蝦夷地関係記事との比較検討を行う目的で、弘前市立弘前図書館所蔵の地方文書等、北東北諸藩側の史料にある松前・蝦夷地関係記事の調査を実施した。確認した主な史料は以下の通りである。

- ・『金木屋日記』(弘前図・八木橋文庫)
弘前城下近郊農村の豪農・豪商である金木屋又三郎が記した嘉永6年(1853)から慶応元年(1865)にかけての詳細な日々の記録(19冊)。松前・蝦夷地に関わる政治・社会情報や風聞、近郊農村から松前・蝦夷地へ出稼ぎに出かけた商人・百姓に関する記事、物価情報など、松前・蝦夷地関係記事が豊富に含まれている。
- ・『覚(公儀御浦触一件)』[原題:「嘉永六年癸丑三月 公儀御浦触一件覚」]
(弘前図・八木橋文庫)
天保14年(1843)から安政3年(1856)にかけて松前和人地も含めて廻達された公儀浦触関係の写し書。
- ・『御用留』(文政13年(1830))
『十三市正舎御用留』(天保2年(1831))
(弘前図・八木橋文庫)
弘前藩の十三町奉行所で作成された日記形態の御用留。松前・蝦夷地の政治・社会情勢に関する風聞や、廻船・舟運による松前・蝦夷地との人やモノの往来に関する記事が含まれている。
- ・『御用留帳』(享和4年(1804))
『御用留帳』(文化6年(1809))

- 『御用状留帳』(天保10年(1839))
- 『御用留帳』(嘉永2年(1849))
- 『御用状留』(嘉永6年(1853))
- 『御用状留帳』(嘉永7年(1854)) 他
(弘前図・八木橋文庫)
弘前藩領大光寺組関係の代官所の御用留。松前・蝦夷地への出稼ぎ百姓や、弘前藩が幕府から命じられた蝦夷地警備のために徴発された人夫に関する記事がある。
- ・『大光寺組荒田村喜丈口聞詮義』(天保9年(1838)4月)
- 『大光寺組田中村辰事市右衛門伴勘助口聞詮義』(文久2年(1862)閏8月)
- 『大光寺組田中村市右衛門娘かん詮義之口書』(文久3年(1863)6月)
- 『金屋村長太郎夫婦并娘いと田中村太四詮義之口書』(万延2年(1861)2月)
- 『金屋村長太郎娘いと本郷村城成妻倅音作妻詮義之口書』(文久元年(1861)6月)
(弘前図・八木橋文庫)
弘前藩の大光寺組代官所による犯罪人詮議についての聞書。松前和人地への女性の人身売買をめぐる事件など、松前・蝦夷地関係の一件が詮議されている。
- ・『御用留』(安政6年(1859))
- 『御用留』(文久2年(1862))
(弘前図・岩見文庫)
弘前城下の新町名主中畑忠三郎による御用留。松前藩主の参勤交代関係や松前和人地への出稼ぎ町人に対する詮議関係など、松前・蝦夷地関係の記事がある。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 三浦泰之「史料紹介 松前藩足軽木村源吉『公私日記』—近世後期における松前藩足軽の職務と日常生活—」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号、2011年、159~260頁、査読無
- ② 三浦泰之「近世中期における蝦夷錦とラッコ皮の流通をめぐる一史料—一七五〇年代までの『弘前藩御国日記』の事例から—」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史—北方文化共同研究報告—』北海道開拓記念館、2010年、181~194頁、査読無

[図書] (計3件)

- ① 長沼孝ほか(共著)『新版北海道の歴史上 古代・中世・近世編』北海道新聞社、2011年、411~482頁
- ② 若尾政希・菊池勇夫編(共著)『〈江戸〉の人と身分5 覚醒する地域意識』吉川弘文館、2010年、199~229頁

- ③ 北海道開拓記念館『2008年移動博物館図録「歴史再発見 日高の風」』北海道開拓記念館、2008年、24頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三浦 泰之 (MIURA YASUYUKI)
北海道開拓記念館・学芸部・学芸員
研究者番号：50300843